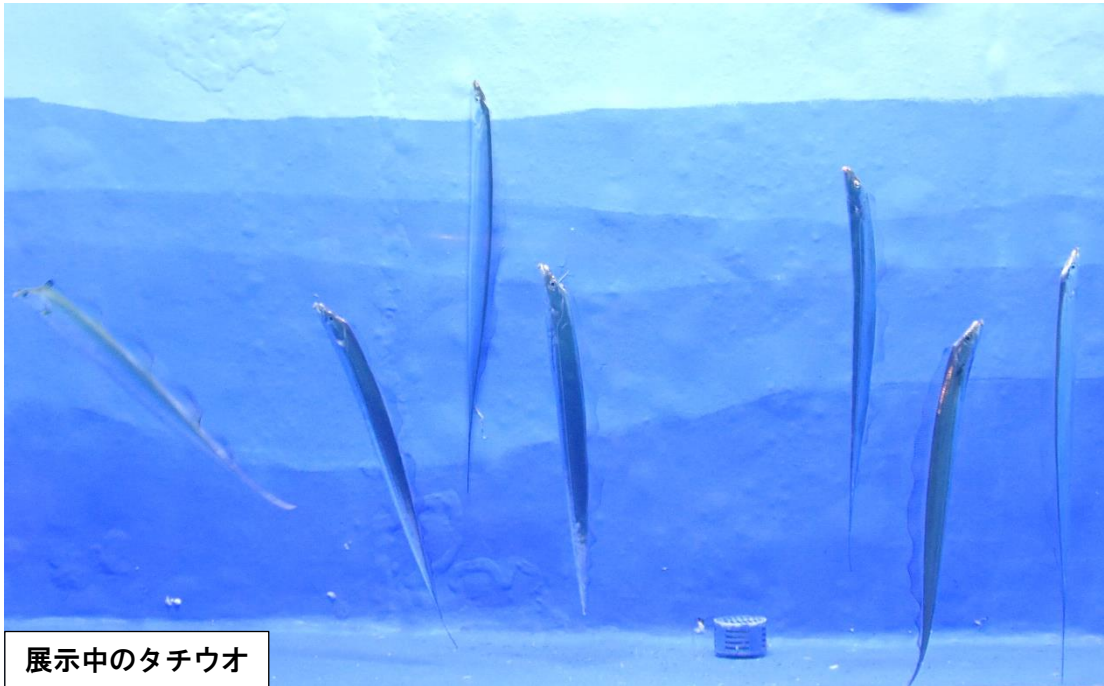


今月の
いいね!

しずまえの刀剣タチウオ



展示中のタチウオ

【名前】

タチウオ（スズキ目タチウオ科）

【すむ場所】

北海道から九州まで

【大きさ】

大きくなると全長 1.5m以上になる

【当館で見られる場所】

駿河湾の生きもの

【特ちょう】

太刀魚と書かれるように、長い刀状の体とウロコを持たない銀色の体色が美しい。近年、釣りの対象として非常に人気が高い。

【担当学芸員から一言】

飼育の難しい魚で、水族館でもなかなか目にすることはありません。当館では、たびたび展示を行っていますが、それでも期間が限られてしまいます。展示の際は、お早めにご来館ください!! (K.Y)

トピック

大きくなったオオニベ

2020年5月に発行しました「海のはくぶつかん」265号で紹介したオオニベの子どもが大きくなりました！当時は展示を始めたばかりで全長は20cmほどしかありませんでした。しかし、その後餌をたくさん食べるようになり、さらに大きな水槽へ移動して成長を続け、今では70cmほどにまでなりました。ただオオニベは最大2mになるとも言われていますから、まだまだ子どもなのかもしれませんね。これからもどんどん成長して、次は「巨大なオオニベ!!」と紹介できることを期待しています。(K.Y)



オオニベの昔と現在



海浜植物と富士山



ダンプトラックの通った後

山には山に特有の植物が生息し、特に標高が高い山に生息する植物を高山植物と呼びます。同様に、海岸には海岸特有の植物が生息しています。ハマエンドウ、ハマボウフウ、ハマネナシカズラ、ハマゴウなど「浜」が名前についているものもあります。このような植物を海浜植物と呼びますが、特有の場所に生息するものはその環境が変化すると減少してしまう恐れがあります。海浜植物を減少させる要因には海浜の減少、盗掘、海岸の開発やその土地特有の問題なども挙げられます。当館周辺の三保の海岸は安倍川や有度山から流れてきた土砂が堆積してできています。しかし、砂防ダムなどの設備の設置による安倍川から流れる土砂の減少、あるいは波による浸食作用によって砂浜が減少してきています。そのため、土砂を運び込み浸食を遅らせているのですが、その土砂を運ぶトラックによっても生息地が破壊されてしまうという危険性があります。写真の様に土砂を埋め立てた場所では植物がほとんど見られなくなっています。三保で見られる植物の中には絶滅の危機に瀕しているものもいます。環境を維持していくことはもちろん、変化した環境を戻すことはとても難しいことなのです。三保の浜辺と富士山が作る美しい風景がみられなくなる日が来ないように、私たちは今の環境を大切にしていかなければなりません。

(O.Y)

あけましておめでとうございます。本年もどうぞ、よろしくお願いいたします。2022年は寅年になります。そこで今回のコラムでは、「トラ」と名の付く海の生き物を紹介したいと思います。

●トラギスの仲間：体の模様が「トラ」を思わせることからトラギスと名前が付きましました。トラギスの仲間は、様々なところに住んでおり、暖かく浅い海に住んでいるコウライトラギスから、オキトラギスの様に深海でも見られるものまで様々な場所で見ることができます。

●シロワニ：全長3mほどになるサメで、顔つきは恐ろしい見た目をしていますが、比較的小となしい性格をしています。英名でSand tiger shark（サンドタイガーシャーク）と呼ばれ、タイガー（トラ）と名の付くサメです。和名の「ワニ」は昔のサメの呼び名で、白いサメということでシロワニと名づけられました。

●トラザメ：こちらは和名に「トラ」と付くサメです。トラギスと同じく体の模様がトラに似ていることからその名が付きましました。繁殖や飼育が簡単でサメの中では小型であるため、近年は実験や研究などに用いられるモデル生物として注目されています。

今回紹介した生きものの他にも、トラウツボやトラフシャコなど海の中には「トラ」と名の付く生き物が数多くいます。ぜひこの機会に、水族館で海の「トラ」を探してみたいはいかがでしょうか。

(Y.I)



ユウダチトラギス



シロワニ

※生物の状況により展示を急遽中止する場合があります。予めご了承ください。